



令和7年度入省予定
～内定者の声～



環境省一般職事務系内定者一同

○はじめに

この度は「内定者の声」をご覧ください、
ありがとうございます。この「内定者の
声」は令和7年度入省予定の一般職事務系
（大卒程度）の内定者が作成しました。

説明会だけではわからない内定者一人一人
の志望理由や筆記・面接対策についてまと
めたものです。

実際に公務員試験を経験した内定者の声は
今後試験を迎えるにあたり一つの手がかり
になるかと思います。

公務員試験は勉強の範囲が広く試験期間も
長いため、終わりが見えず不安かもしれま
せん。

この「内定者の声」がそういった疑問や不
安を抱えている方の参考となり、環境省に
対する興味を深める糸口となれば幸いです。

(内定者A)

- ・ 出身地 東京都
- ・ 最終学歴 大学卒業見込
教養学部歴史学専攻
- ・ 趣味／特技 読書／テニス・水泳



▲中州の屋体にて。
福岡はおいしいものばかりで胃袋
が足りませんでした！

○環境省の志望動機

まず、説明会に参加した際に職員の方々の温かい雰囲気自分が合っていると感じたからです。この職場なら楽しく仕事ができるのではないかと直感的に感じたことが環境省を志望した第一の動機です。また、その説明会において、担当の職員の方から、環境省は「誰かがやらなければ大変なことになってしまう業務を所掌している」と教えていただき、その姿勢が自分の考えと合っていると感じたことも志望動機の一つです。

加えて、私は国家公務員一般職の他にも地方自治体や国家専門職も受験していたのですが、最終的に国家公務員一般職に決めた理由を書ければと思います。それは、ずっと一つの分野に携わりながら仕事ができるからでした。私は、部活やサークル、アルバイト等をあまり変えることなく一つのことを続けることがこれまで多かったです。地方自治体ですと、異動の度に全く違う部署の配属になる可能性があります。国家公務員であれば異動したとしてもその省が管轄する分野にずっと携わることができます。この

点が私の性格と合致していると思ったため、最終的に国家公務員に決めました。



◀長崎の夜景。

○公務員の勉強方法・面接対策

【筆記試験】

筆記試験の勉強方法としては、予備校に通っていたので、基本的なカリキュラムはその予備校に従って勉強をしていました。意識していたのは、「なるべく勉強時間ゼロの日を作らない」ことでした。いくら忙しかったとしても、10分でいいので勉強時間を確保するように心掛けていました。また、直前期には時間を測って解くようにし、より本番を見据えて勉強するようにもしていました。科目としては、数的処理と民法が苦手でした。その2科目はなるべく毎日触れるようにし、3~4日でおおよその分野を1周するようにしていました。逆に得意だった経済系や政治系の科目は1日おきや取り組む時間を少し減らすなどして、苦手科目に時間を使うようにしました。また、私は論文も苦手としていました。対策としては、まず自分なりに書きやすい型を決めて実際に文章を書き、自分以外の人に添削してもらっていました。そしてそのアドバイスをノートに書き込み、それ以降の論文に活かすというサイクルでやっていました。

【面接対策】

面接対策は、一次試験が落ち着いた6月頃から本格的に始めました。友人や家族、先生などに協力してもらって自己分析をし、想定問答をある程度準備して、模擬面接を行うという流れで対策をしていました。私は、緊張しやすい性格であったので、模擬面接を複数回行うことで、面接という場に慣れることを意識しました。模擬面接は、予備校に加えて大学のキャリアセンターやハローワーク等で対応していただきました。その甲斐あって、本番ではほとんどの質問に自信をもって答えることができました。

公務員試験は対策にかかる時間が多く、くじけそうになる方もいるかもしれませんが、私は公務員試験を受けてみて、努力がそのまま報われる試験だと強く感じました。対策をすればするだけ合格への可能性が高まると試験対策を終えて感じています。そのため、辛いときには周りの力を借りながら最後まで走り切り、悔いのない試験対策にしてほしいと願っています。この文章が少しでもどなたかの役に立てるととても嬉しいです。応援しています！

(内定者B)

- ・ 出身地 群馬県
- ・ 最終学歴 大学卒業見込み・法学部
- ・ 趣味・特技 テニス、
K-POPのライブ観戦、カフェ巡り



○環境省の志望動機

地球上のあらゆるところで環境問題が深刻化していることに関心を持ち、環境学や環境法の講義を大学で受講しました。その講義をきっかけに、環境法のゼミにも所属し、様々な環境問題とその施策について学びました。その影響もあり、就活を始める際に様々な企業や公務員の職務について調べる中で、「環境」はどのような職業に就いたとしても必ず関わるものなのだと改めて実感しました。私自身、法学部に所属していることもあり、多くの人に密接に関わる環境を軸として、政策立案に携わってみたいと考えるようになりました。環境問題の解決というのは非常に難しく、地球規模でその解決に向けて様々な活動が行われています。私自身が、環境省の一員としてその解決に少しでも貢献したいという思いから環境省を志望しました。

○公務員試験の勉強法・面接対策 (筆記対策)

予備校のWeb講座を大学3年の10月後半に受講し始めました。自分自身が長い時間をかけるより、短い時間で集中して勉強する方が向いていると考えていたため、実際には2月頃から本格的に勉強しました。

教養試験も専門試験も全ての科目を完璧にしようとするすると全て中途半端になってしまうと考え、自分が得意な分野に特に力を入れ、ボーダーを確実に越すことを目標にしていました。教養試験では、数的処理の配点が多いため、毎日最低でも過去問を5問解くようにし、徐々に解けない問題を減らしていくようにしました。

専門試験は、法学部だったため、法律系で点数を取ることができるように何度も繰り返し過去問を解き、理解していない部分は改めて解説動画を見るようにしていました。ミクロ・マクロなどの経済系は、一から勉強する必要があったため、あまり時間をかけずに、解説動画を見て、本番解けそうな問題があったら解くくらいの気持ちで臨みました。私自身、通学に片道2時間、アルバイトを2つ掛け持ちという生活をしており、机に向かって勉強する時間を十分にとれなかったため、電車の移動時間を活用して暗記科目を固めるようにしました。

論文試験は、かなり直前に始めました。時間もなかったため、予備校の問題集やインターネットに掲載されている模範解答を読み、文章の構成を最初に学びました。その後、近年の社会問題について、①どのような問題があるのか、②現在どのような政策・対策がとられているのか、③自分自身はどのように解決するべきだと考えるのかという3点をノートに整理し、どの問題が出題されてもその3つがすぐ思い浮かぶようにしていました。また、大学の試験でも感じていたことですが、大学生活でパソコンに慣れてしまうと、いざ論文を書こうとしたときに、文字がスラスラ書けない、漢字が思い出せないとなる場合があるため、論文対策ではパソコンを使わずに、実際に文字を多く書くようにしていました。そのようにすることで、本番の誤字脱字も減ると思います。

【面接対策】

面接は第一印象が大切だという話をよく耳にしたため、とにかく笑顔で、明るくハキハキ話すことを心がけました。私は、人見知りな部分があり、面接に対して苦手意識がありましたが、自信なさに話してしまうと印象が悪くなるため、いつも明るく話す友人を参考にしながら同じように話す努力をしていました。



内容に関しては、官庁訪問・人事院面接ともに、あらかじめ面接カードのようなものを提出するため、そこに書いた内容と食い違わないように注意していました。ただ、面接カードに書いた文章をそのまま暗記するのでは会話ができずに、かえって話すことができなくなってしまうため、ノートに箇条書きでまとめ、質問に応じて、話し方を変えていました。特に、官庁訪問は待ち時間も長いため、面接をする度に内容をノートにまとめていました。その中で、疑問に思ったことやそれぞれの面接官に聞いてみたいことなども考え、逆質問を準備していました。

(内定者C)

- ・ 出身地 神奈川県
- ・ 最終学歴 既卒（2019年卒）
- ・ 趣味／特技 ドライブ・登山／空手・剣道

【環境省の志望動機】

わが国における政策の執行に関わるという、スケールの大きな業務に憧れを持ったことが第一の動機です。また、私の出身地では過去に大規模な公害が起こり、その克服のために多くの努力がなされてきたことを、学校教育などを通じて学んできたことが、環境行政へ関心を持つきっかけになったと考えています。事務官として、環境問題の克服や、環境保全への貢献といった取り組みを支える存在になりたいと考え、環境省を志望しました。

【勉強方法・面接対策】

私はいわゆる「再チャレンジ」で、過去にも公務員試験を受験した経験がありますので、試験の対策では、これまでに勉強した内容を復習すること、また過去の試験で対策が不十分であったと感じた科目を集中的に学習することを意識しました。

【基礎能力試験】

過去に受験した際の勉強の積み重ねもあり、合格ラインを超える程度の得点であれば安定的に期待できる状態でした。そのため基礎能力試験の対策は最小限にとどめ、専門試験への対策に時間を割くようにしました。

知能分野では、重要な解法のパターンを復習することを意識し、また知識分野では時事問題対策のテキストを読みこみ、知識の更新を図りました。

【専門試験】

全体的に理解不足の感がありましたため、憲法、行政法、民法といった重要科目を中心に、基礎から学び直すつもりで臨みました。過去問を反復学習し、また試験で問われる判例のうち重要なものについては、その背景や経緯をも踏まえて理解するなど、単純な暗記作業にとどまらない学習になるよう心がけました。

【論文試験】

時事的な内容について理解を深めるつもりで、試験勉強の合間に直近のニュースで話題に挙がった事象を積極的に調べるようにしました。

そのうえで、調べた内容を序論・本論・結論といった論文の形に落とし込む学習をおこないました。

【人物試験・官庁訪問】

自分自身のこれまでの経歴を整理し、公務員を目指す理由は何か、その実現のために何をしてきたか、どのような業務に携わりたいかといった質問に独自の視点で答えることを意識しました。「環境白書」を参考にして、重要な施策や環境省のこれまでの取り組みについて情報収集をしました。

○アドバイス

公務員試験に限った話ではありませんが、職業選択やそれに付随する就職活動では、その人の学力のみならず、過去の経歴や人柄など、総合的な人間力が試されるといえます。自分自身がこれまで何を大切にして過ごしてきたか、これから先どのような人生設計を目指したいのか、一度立ち止まって見つめ直す機会を設けることは、結果的に希望する職業選択への近道になるはずです。そのためにも、人生に無駄な経験はないというつもりで、様々な物事に挑戦し、新しい発見・気づきを積み重ねていくことが重要であると私は考えます。



▲伊豆大島 三原山へハイキング

(内定者D)

【出身地】 東京都

【最終学歴】 大学卒業見込み
(法学部法学科)

【趣味/特技】 ゲーム、
ラケット競技、カラオケ



▲どこでも行けそうなドア

志望動機

ありとあらゆる環境問題に地球規模で取り組むことで、環境と経済双方の保護や発展に貢献したいと思い志望しました。環境省に興味を持ったきっかけは、アルバイトの経験から、食品ロスの問題に取り組みたいと考えたことです。そして、説明会に参加するうちに、食品ロスに限らず環境に関わる仕事がしたいと考え、より環境省に興味を持つようになりました。

勉強方法・面接対策

・教養試験

予備校の講義を受講し、あとはひたすら過去問を解いていました。特に数的処理は問題数が多く時間配分が難しいため、どんなに忙しくても毎日問題を解いて、感覚を忘れないようにしていました。暗記科目は、直前期のスキマ時間に息抜きがてら勉強していました。

【専門試験】

こちらも予備校の講義を受講し、あとはひたすら過去問を解いていました。数的処理もですが、専門試験は特に過去の問題の焼き直しが多いので、過去問を繰り返し解くことが有効です。毎週計画表を作り、それに沿って勉強していましたが、苦手だった民法・ミクロ・マクロに力を入れました。問題を間違えるたびにチェックを付けておいて、直前期には特にチェックが多かった問題を中心に復習していました。

【論文試験】

論文対策は年明けから始めました。始めたばかりのころは時間内に書ききることができなかったもので、できるまで何度か練習しました。二月ごろに発行された論文用の参考書がとても役に立ちました。

【面接/官庁訪問】

対策として大学のキャリアセンターや東京仕事センターを利用しました。その過程で強く感じたことは、面接とは相手との会話のキャッチボールであるということです。それに付随して、定型文を用意することは悪いことではないと思いますが、それに頼りすぎることはやめたほうがいいと思います。練習では用意した文をそのまま話そうとし、一方的に暗記した分全てを話してしまうことがありました。本番ではさらに緊張も相まって、早口かつ棒読みになる人もいると思います。これでは会話のキャッチボールとは言えません。そのため、聞かれたことに対して、臨機応変に自分の言葉で感情をのせながら話すことが大切だと感じました。変に自分をよく見せようと気負わず、自然体で臨むことができれば合格できると思います。

(内定者E)

- ・ 出身地 神奈川県
- ・ 最終学歴 大学卒業見込み（環境専攻）
- ・ 趣味／特技 散歩、体を動かすこと

・ 環境省の志望動機

小学校のボランティア活動をきっかけに環境問題に関心を持ち、大学では環境を専攻しました。環境省では、どの業務にも環境との関わりがあり、さまざまな角度から環境問題の解決に携わることができます。国民の「当たり前」の暮らしを将来世代まで守るために持続可能な社会の実現に貢献したいと思い、環境省を志望しました。

・ 公務員試験の勉強方法・面接対策

【筆記試験対策】

・ 基礎能力試験

冬からはやり方を忘れないように、朝1時間ほど数的処理の問題に取り組むことを習慣化しました。特に苦手だった図形は、先生や友人に相談しながら考え方のコツを学び、時間をかけすぎないように意識して練習しました。基礎科目では時間配分が重要だと思うので、模試の時から意識しました。

・専門科目

大学では習っていない科目が多かったので、問題集を一周するだけでもかなり時間を使いました。民法は量が多くかなり苦戦したので、間違えた問題はすべての選択肢を教科書やテキストで確認し、正確な知識として定着するように意識しました。ミクロ経済学とマクロ経済学は、計算問題を確実に得点源にするため、公式を暗記し、問題演習を繰り返すことを重視しました。

【面接対策】

予備校の個別面接練習や大学・市が運営しているキャリアサポートセンターを利用して、いろいろな方からの意見をもらい、初めて聞く人でも伝えたい内容がわかりやすく伝わるように意識しました。また、「なぜそう考えたのか」「なぜその行動をとったのか」を徹底的に深掘りし、話に嘘がなく、堂々と自分の言葉で説明できるように準備しました。

(内定者F)

- ・出身地 岐阜県
 - ・最終学歴 大学卒業見込み
- 経法学部総合法律学科・環境法務コース
- ・味／特技 卓球観戦／アレンジ料理



▲実家で飼っているトイプードル
(寝ています)

【環境省の志望動機】

環境問題のスペシャリストとして働きたいと考えたからです。私は、中学生の時に授業で四大公害病について学んだことがきっかけで、環境問題について深く学びたいと考え、大学では環境法を専攻しました。様々な環境問題は密接に関わっており、また、世界が協働して取り組まなければならない規模の大きい問題です。環境省では、そのような環境問題全般に大きな規模で取り組めると考え、志望しました。

○公務員試験の勉強方法・面接対策

【教養試験】

数的処理に力を入れました。私は数的処理が一番苦手な科目であったため、毎日学習時間の最初に取り組むと決めて、数的処理に手を付けない日がないようにしました。色々な問題集に手を出すのではなく、一つの問題集を何周することで、知識やテクニックの定着を図りました。

【専門試験】

法律科目は、ひたすら問題集を周回して知識を定着させるようにしました。何度も間違える問題はテキストに戻り、自分なりにノートにまとめることで理解を深めました。経済科目は、最初は苦手意識があり問題集に取り組むのも億劫だったのですが、問題集を一周したところで苦手意識がなくなり、取り組みやすくなりました。頻出度の低いような難しい問題にはある程度見切りを付けて取り組むことで、問題集を何周もしながら知識を定着させることができました。

【面接対策】

まずは自己分析から始め、大学内の公務員講座で何度も模擬練習をしました。エピソードを言葉にする際には、なぜその行動をしたのか、なぜそう思ったのかという「理由」が話せるように意識しました。面接は慣れることが一番大切だと思います。慣れてくると、自然とゆっくり笑顔で話すことができるようになりました。

官庁訪問に関しては、通常の面接対策に加えて、環境省の組織図を見たり、環境白書を読んだりすることで、自身が環境省でどのようなことに携わりたいのかをしっかりと伝えられるように準備しました。

リンゴ型？のオブジェと富士山▶



(内定者G)

- ・ 出身地 神奈川県
- ・ 最終学歴 大学卒業見込み
経済学部
- ・ 趣味/特技 御朱印集め/弓道



【環境省の志望動機】

人々の当たり前の暮らしを守る仕事をしたいと思い、環境省を志望しました。また、説明会に参加する中で公害問題をきっかけに創設された環境省の役割が気候変動対策や生物保全、福島復興再生など幅広くなっていると学びました。環境は当たり前の暮らしを支える存在であり、環境問題は当たり前の暮らしを脅かす存在です。このような環境を軸に様々なアプローチで働くことのできる環境省に魅力を感じました。

○公務員試験の勉強方法、面接対策

【筆記試験】

週3で開講される学内講座を受講し、空きコマや授業終わりには図書館で過去問を解いて過ごしました。年度によって科目の難易度にかかなりバラつきがあるため、可能な限り多くの科目を完成させ、当日の選択肢を増やしておくことで安心です。



【面接対策】

「お話をしに行く」という意識で面接に臨みました。官庁訪問でも人事院面接でも共通で、問いに対し丸覚えの長い回答ではなく、「対話」を意識し簡潔に伝えることが重要です。また私自身、初対面の方と会話する際に緊張しやすいため、週1で大学のキャリアセンターで様々な職員の方に模擬面接をしていただきました。

(内定者H)

- ・ 出身地 三重県
- ・ 最終学歴 法学部
- ・ 趣味／特技 ゲーム、
オフィス街の散策



【環境省の志望動機】

アルバイトでの食品の大量廃棄を目の当たりにし、環境問題の解決に尽力したいと思ったことが主な志望動機です。説明会などを経て、廃棄物の適切な管理・処理をはじめとした様々な環境政策に携わり、環境分野からの国づくりの一助になりたいと考えるようになりました。また、講演や官庁訪問を通じて、職員の方々の価値観や人柄に魅力を感じ、環境省で働きたいという気持ちが一層強くなりました。

○公務員試験の勉強方法・面接対策

【筆記試験】

アウトプットがとても大事だと感じました。参考書をただ読むよりも問題を解く方が記憶に定着しやすいということは私の実感するところです。新しい知識を入れている段階でも、こまめに問題演習などをして復習することで、より効率的に学習を進められるのではないかと思います。私は、1つの科目のインプットを終えると「広く浅く」問題集を繰り返していました。具体的には、問題を7つ飛ばし（No.1→No.8→No.15・・・）で解くなどして、1日でより多くの単元に触れることを意識していました。

【面接対策】

自身が経験したことから何を学び、どのような価値観を得て、どのような行動指針を持つようになったのかを分析することが非常に重要だと感じました。

そうすることで、自分の性格や得意なこと、何をしたいのかということも明確になってくるのではないかと思います。私は面接が大の苦手で、アドバイスできることは正直少ないのですが、「笑顔で愛想よくいること」は誰にでもでき得る最強の面接対策だと考えます。私自身それができていたのかは甚だ疑問ですが、面接という極度の緊張状態の中でも表情や振る舞いに気を遣うことができるようになれば、それは何物にも代えがたい武器になってくれると思います。



(内定者I)

- ・ 出身地 愛知県
- ・ 最終学歴 大学卒業見込み
(政治学・政策学)
- ・ 趣味/特技 趣味：読書、
ラーメン屋巡り



▲静岡旅行に行った際
偶然見つけたゴリラの石像

【志望動機】

私は、中高生のころから国家公務員として働きたい、国にかかわる大きな仕事にかかわりたいと考えていました。そうした状況の中で、環境政策をメインテーマとするゼミナールに所属し、そこでの活動を通じて環境問題や政策に興味を持ったため環境省を志望しました。特に、幼少期には見られていた田んぼの生き物が年々見られなくなっていくという地元での経験から、生態系保護にとりわけ関心を持ち、官庁訪問、面接に臨みました。

○公務員試験の勉強方法・面接対策

大学内の講座を利用し、参考書や問題集もその講座のものを利用していました。
以下、筆記試験対策と面接試験対策に分けて私の経験をお話しします。

【筆記試験】

講座が始まった大学3年の春から勉強を始めました。勉強時間は春から年の瀬あたりまで一日あたり1～2時間ほど（講座の授業時間除く）で、年が明けるあたりから3～4時間ほどに増やし、余裕があるときは5時間ほど時間をとって勉強していました。学校の図書館を利用し、一日1～2教科に絞って集中的に勉強しました。年明けまでは授業内容の定着を目的にテーマを絞った問題演習を行い、年明けから模試の結果や自己分析から苦手分野を特定し、そこを克服するような勉強を行いました。とにかく試験当日までの期間が長いので、途中で心身を崩さないよう、無理のないペースでとにかく「完走」することを心掛けることが大切であると考えます。

【面接試験】

こちらでも、学内講座で開かれていた面接練習を利用して行いました。3年生の11月ごろから月に1, 2回のペースで実践形式の練習を行い、それに向けて面接カードの作成や自己分析を行いました。練習の中で特に意識していたのは、自分を隠さずに話すことです。自分を隠さず、自分の経験を自分の言葉で描写することを特に心がけて臨んでいました。また、日々の生活の中で感じたことや経験したことが思った以上に役立つので、自分の生活や感情に気を配って過ごすことが大切なのかなと考えました。

(内定者J)

- ・ 出身 埼玉県
- ・ 出身学部学科
法学部政治学科
- ・ 趣味
旅行 ハリーポッター

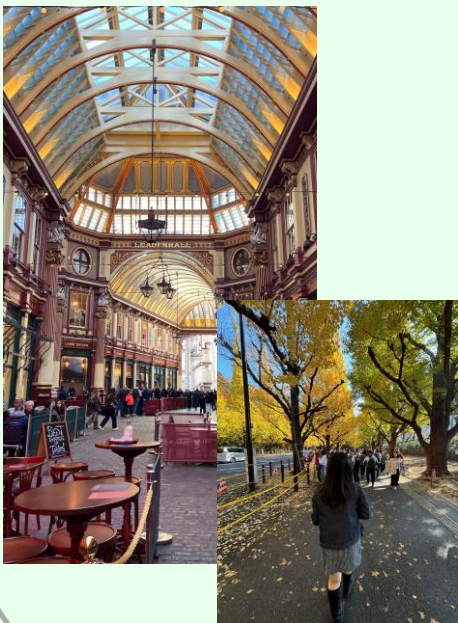


・ 志望理由

大学にて社会学を学び広く社会問題について知っていく中で、今ある環境を未来に引き継いでいくことの重要性を知りました。また、飲食店にてアルバイトをしており、食品ロスを目にする機会が多く問題意識を持っていました。そのような中で環境省の説明会に行った際、行っている取組や職員の方々の人柄に魅力を感じ、強く志望するようになりました。

・ 試験対策

予備校に入っており、択一对策に関しては①講義を視聴→②問題演習の流れで勉強をしていました。



インプットには時間をかけすぎず、アウトプットに多くの時間を費やして、問題を解きながら知識を頭に入れていくことが大切だと思います。

面接については、想定問答をたくさん用意した後に予備校や大学のキャリアセンターで練習しました。気を張りすぎず、あくまで会話の延長として臨むように気をつけていました。

(内定者K)

- ・出身地：長野県
- ・最終学歴：大学卒業見込み
(国際教養学部)
- ・趣味／特技：温泉/躰道



・環境省の志望動機

環境問題改善に少しでも貢献したいと思い、環境省を志望しました。なかでもインターンで伺った、「環境問題に携わる省庁は今沢山あるけれど、環境を軸に働くことができるのは環境省だけ」というお言葉がとても印象に残っています。また、大学でのボランティア活動を通して、個人の活動はもちろん大切ですが取り組みに意識の差が大きく影響することを体感し、国全体での活動の必要性を改めて感じました。そこから、日本全体を動かすことができる環境省で働きたいと強く考えるようになりました。

・公務員試験の勉強方法・面接対策

●筆記試験

基礎能力試験では、苦手な数的処理を中心に、専門科目は法律科目を中心に勉強しました。私は勉強開始が大学3年の10月と遅れてしまったうえに、1人だと中々勉強に集中できなかったため、友人と約束したり、場所を変えたりして勉強時間の確保を目指しました。問題集で間違えた問題のみを繰り返すことと、アプリで知識系の問題を隙間時間に取り組むことが知識の定着に特に役立ったと感じています。

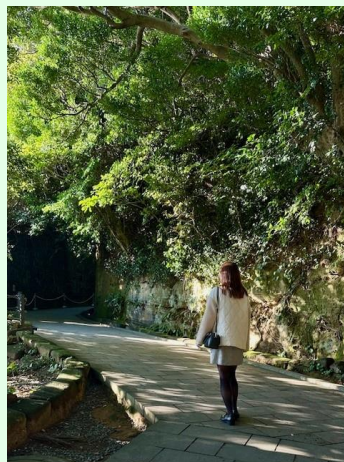


●面接対策

第一志望の環境省の説明会やインターンには何度も参加し、職員の方々のお話を直接聞くことを大切にしました。また、日頃の会話でも正しい敬語の使い方を意識したこと、自分の考えをノートにまとめ直前まで確認したことで、本番も平常心で迎えることができました。

(内定者L)

- ・ 出身地 埼玉県
- ・ 最終学歴 大学卒業見込み
(法学部)
- ・ 趣味/特技 散歩、読書、歌うこと



【環境省の志望動機】

私はきれいな海や自然を見ることが好きで、美しい地球環境を将来世代に残し続けたいと思ったことがきっかけで、環境問題に興味を持ち始めました。大学では、変化し続ける環境問題を、未来も含め捉えていくという視点で、法システムを学んできました。そこで環境問題の解決には、現状にあった基準をいかに作成し、現場に即した政策を具体化することが不可欠であると学びました。このような環境政策を先導していくのは環境省でしかできないと考えたため、環境省を志望しました。

また、環境省の説明会に参加した際、たたかい雰囲気の中で、職員の方々が自分の仕事に誇りをもって働かれている姿に惹かれ、私もここで働きたいとさらに強く思うようになりました。

○公務員試験の勉強方法・面接対策

【筆記試験】

大学提携の講座で勉強していました。教養試験については、まず過去問を解いてみて、問題の形式や公務員試験特有の問題の解き方を学びました。大学受験などの知識で対応できると考えたため、その後は問題に慣れるように、1日のはじめに、文章理解と数的処理を合わせて1時間ほど問題演習していました。本番直前は、毎日1年分の過去問を解き、時間配分の練習をしていました。

専門試験に関しては、講義を受けた後、ひたすらアウトプットを繰り返していました。具体的には、問題集を1周して間違えた問題だけを正解になるまで解く、というのを1セットとして考え、それを5,6周行いました。最初は間違える問題ばかりでしたが、3,4周目からは知識が定着してきて、最終的にはほぼ全問正解できました。また、覚えられないものは付箋に書いて部屋に貼りふとした時に見たり、電車や髪を乾かす時間に暗記をしたり、時間を有効活用することを意識していました。

【面接対策】

話すことが苦手だったので、まず想定問答を沢山用意して暗記しました。面接本番は暗記した通りに話すわけではないですが、様々な回答を用意しておくことで、自分の考えや伝えたいことが整理され、落ち着いて回答することが出来たと思います。実践的な面では、大学のキャリアセンターやハローワークで模擬面接をお願いしていました。その際面接の様子を録音録画させていただき、話すスピードや目線、表情などを客観的に見て改善していました。官庁訪問では、環境省に入りたい熱意を伝えきること、ありのままの自分を見ていただくことが特に大切だと思います。



(内定者M)

- ・ 出身地：東京都
- ・ 最終学歴：大学院修了
社会学研究科心理学専攻
- ・ 趣味／特技：散歩、カフェ巡り
バードウォッチング



・ 環境省の志望動機

幼い頃から鳥類をはじめとした生きものの生態に興味があり、生きものと人とが心地よく暮らせる社会に貢献したいと考えていました。就職活動を進める中で、環境省の取組を知り、環境調査や環境保全を基軸とした活動に興味を持ちました。

生き生きとされた職員の方々がいる環境省で、自分も生きものと人とが共生できる世界を支えたいと考え、志望を決意しました。

・ 公務員試験の勉強方法

まずは、試験日まであと何か月勉強できるかを確認し、調整日も含めて日単位で計画を立てました。その後は、隙間時間も活用し、1冊の過去問題集を徹底的に繰り返し解きました。

週に1日は勉強しない日を作り、リフレッシュの時間を作りました。メリハリをつけて勉強することで、落ち着いて楽しみながら問題に向き合えました。

・ 基礎能力試験

基礎能力試験に対しては、数的処理の勉強に力を入れました。



1周目では、自分の得意分野と苦手分野の把握に努めました。2周目では特に苦手分野を集中して解き、3周目でも理解できなかった問題は、後回しにする判断を行いました。高難易度の問題やどうしても苦手な問題にまでは手を広げず、基本知識で解ける問題や得意な問題を見極め、確実な正解をつかむことを意識しました。

・専門試験

専門試験に対しては、得意科目の心理学を中心に、自分が苦手ではないと判断した科目に絞って勉強しました。

問題文や選択肢によく出る用語を確認し、用語の意味や出来事の内容を正確に説明できるまで繰り返し覚えめました。



・一般論文試験

一般論文試験に対しては、1週間に1題を目安に過去問を解きました。演習時は常に時間配分を意識し、始めの10分は資料読解と文章構成に費やすことで、丁寧な字で落ち着いて論文を書き進めることができました。

・官庁訪問、面接対策

官庁訪問や人事院面接ではどうしても緊張してしまいましたが、相手とのコミュニケーションを楽しむ姿勢を意識していました。質問に対しては、長くは語らず、簡潔に一言で答えるように心がけました。思いがけない質問をされた場合は焦って戸惑いましたが、その時は、完璧な受け答えではなくても、面接官の目を真っ直ぐ見て、明るく笑顔で自分の言葉を伝えるようにしました。自分自身の経験をただ思い出すだけに留まらず、言葉にする練習を徹底すると、質問に対してより答えやすくなると思います。

・アドバイス

試験対策は、多くの問題に手をつけすぎず、同じ問題集を繰り返し解き、一問一問を確実に理解することが重要ではないかと思います。ただ、毎日勉強を続けるのは疲れてしまうので、時には趣味を楽しんだり、友人や家族と話したりするなど、息抜きの時間をとることも、勉強を継続するうえでは大切だったと感じています。周囲のペースに対して焦らず、自分のペースで無理なく勉強を重ねていってください。



(内定者N)

出身地 千葉県生まれ、東京育ち

最終学歴 文学部フランス語専攻

趣味、特技 料理、旅行、グルメ巡り



◀ フランス旅行にて

● 環境省の志望動機

環境の保護に取り組みながら、地域振興などをはじめとする日本の成長を押し進めるという点に魅力を感じたからです。説明会を通じて、環境省は環境保護のみならず、様々な形で国の付加価値の創出も行っていることを知り、こうした業務は環境省でしかできないと思い、志望しました。また、少人数ながらもスケールの大きい仕事を一丸となって取り組む、風通しの良い職場という雰囲気が印象的で、私もこの一員になりたいと強く感じました。

● 公務員試験

大学3年生の5月から予備校に通い、講座を通じて勉強をしていました。直前の1月頃からは1日平均7-8時間ほど行っていました。

教養科目では、私は数的処理が苦手でしたので、基本問題だけは必ずとれるように目標を立てました。基本問題の解説を自分で説明できるようになるまで、何度も問題を解きました。専門科目では、経済や法律の勉強は初めてでしたので、非常に苦労しました。民法、憲法、行政法といった法律科目は、1つの問題に没頭して取り組むよりも、問題集を何周も繰り返し、数をこなすことが重要だと思います。



ミクロ、マクロは、分からない点は映像授業の講義を何度も見返し、解法パターンを暗記しました。公務員試験は科目数が多いので、広く浅く勉強していくことが肝になります。隙間時間などを利用して、できるだけ多くの問題に触れて覚えることをおすすめします。

▲友だちと一緒に手作りクリスマスホームパーティー

(内定者O)

内定者プロフィール

- ・ 出身地 広島県
- ・ 最終学歴 大学卒業見込み
- ・ 趣味／特技 旅行/テニス



・ 環境省の志望動機

私が環境省を志望する理由は、環境問題の解決を図るなら国家レベルで取組が求められると考えたからです。私が中学生の頃にパリ協定が締結され、地球温暖化に関心を持つようになりました。さらに、大学での学びや環境に関する活動をするなかで、より幅広い環境問題とそれらに対する政策にも興味を持ちました。



その学びから、私たちの世代から環境に被害日本・地球規模でそして、複合的に関係し合う環境問題を解決していくためには、国が政策を立案・実施していく必要がある考え、環境省を志望しました。

公務員試験の勉強方法・面接対策

・基礎能力試験・専門試験

大学内の講座を受講し、できる限り講義で示されるペースを守り勉強を進めました。専門科目を一通り終えた後は、できないところを見つける問題演習を繰り返し、間違えたところを抜き出して再度解くという勉強をしていました。また国家公務員の過去問を、自身が受験するところ以外も幅広く5年分以上解き、見たことのない問題を減らすようにしました。過去問を解くことで、時間配分や問題の傾向を掴むこともできるので、苦手分野を見つけては復習をすることを繰り返すことが得点につながったと思います。

・面接対策・官庁訪問対策

面接対策は、慣れであるということを講師の方に言われていたので、何度も対人の練習を重ね、多くの講師の方に指摘をされながら改善するという方法で対策しました。私は3月頃から筆記試験と同時に対策を進めつつも、1次試験が終わってから面接対策にシフトしました。役に立ったと思うことは、自分の志望先のことを調べ、志望理由や自己分析など

に何を盛り込むか、どのような質問が想定されるかなどを考えて紙にまとめるという対策です。

そして、実際に口に出し練習をして、質問者に内容を短く、

分かりやすく伝える表現を

考えました。その言葉の中に、

環境省が第一志望であり、

ここで働きたいという熱意を

伝えられるかが最も重要だと思います。



(内定者P)

出身地 東京都

最終学歴 大学卒業見込、法学部

趣味・特技 絵を描くこと



〈環境省の志望動機〉

小学生のときに環境問題について学ぶ機会が多くあったため、もともと環境問題に関心がありました。環境省に入りたいと強く思ったきっかけは説明会でした。そこで、環境を保護する様々な取り組みに加え、地域の活性化や観光の推進といったことまで行っていると知り、その業務の幅広さに惹かれました。また、国民のためにできることを常に探し、互いに協力し合いながら実行していく環境省の職員の皆さんの姿勢を見て、自分もそうなりたいと思い、志望しました。

〈公務員試験の勉強方法・面接対策〉

・勉強方法

予備校に1年ほど通って勉強しました。特に問題集の繰り返しが大事だと感じました。暗記科目は問題のパターンがあるので、難しい内容でも、理解するよりも先にとりあえず問題を解いて覚えることをしていました。また、ニュースのチェックを普段からしておくことがおすすめです。時事問題対策だけでなく、論文対策や面接対策のためにもなります。政府や自治体が、様々な社会問題に対して、どのような政策を行っているのかをメモしておくことで、論文で書く内容を充実させることができると思います。

・面接対策

大学や予備校の模擬面接を利用したり、友人と練習したりしました。その中で想定される質問やそれに対する回答を考えていきました。また、環境省が行っている政策で興味のあるものは詳しく調べ、自分で説明できるようにしました。本番では、面接だからと気負いしすぎずに、相手と自然なコミュニケーションを取れるように心がけました。

(内定者Q)

- ・ 出身地：神奈川県横浜市
- ・ 最終学歴：大学卒業見込み
(環境経済学専攻)
- ・ 趣味／特技：ライブ／競技かるた



【環境省の志望動機】

令和元年の東日本台風で浸水被害にあった経験から、自然災害や環境問題に興味を持ちました。また、大学において気候変動について学ぶ中で、「環境」が日常生活から国家経済まで、常に社会を多方面から支えていることを実感しました。

同時に、今後の日本における環境問題対策の重要性を強く感じました。以上の学びや経験を踏まえ、環境問題に最前線で取り組むことで国の基盤を支え、より良い日本を将来世代に残す仕事がしたいと考えたため、環境省を志望いたしました。

○公務員試験の勉強方法・面接対策

【筆記試験】

4年次まで部活動があり、両立は大変でしたが、毎日少しの時間でも勉強するよう心がけていました。

勉強のペースを掴むために、予備校のホームページに載っていたカリキュラムを目標にしていました。部活やアルバイトがない日は、大学の図書館で勉強していました。特に専門試験については、移動時間に予備校のテキストを読んだり、問題集を解いたりして、とにかく繰り返すことを意識していました。

【面接対策】

予備校の面接練習を利用していました。面接カード等は、複数の人に添削をお願いして、何度も推敲を重ねました。本番で慌てないように、直前の接練習では、想定外の質問の受け応えも練習しました。また、3年次には民間企業の面接も受けたことで、面接に慣れることができました。

(内定者R)



【出身地】 愛知県

【最終学歴】 法学部法律学科卒業見込み

【趣味/特技】 音楽を聴くこと、観劇/書道

・環境省の志望動機

大学で環境法のゼミに入り環境問題に対する法規制や救済などについて学んでいく中で、自分も環境に携わる仕事をし持続可能な社会の実現を目指したいと考えたため、環境省を志望しました。また令和5年度に環境省就業体験プログラムに参加し、環境省の雰囲気の魅力を感じたことも志望動機の一つです。

公務員試験の勉強方法・面接対策

【教養試験】

教養試験については数的処理に重点を置いて学習しました。苦手な分野である図形や立体の問題については特に繰り返し問題を解いていました。数的処理は時間が足りなくなることも多かったため、普段から時間を測って解くようにしていました。

知識分野については後回しになってしまっていたため、直前期に詰め込みました。

【専門試験】

専門試験については予備校のWEB授業で知識を入れて、問題を繰り返し解くというサイクルで勉強をしていました。法律科目については授業を聞きながらきちんと条文を引いてチェックをつけて学習すると知識の定着がしやすかったです。

経済科目については基礎を固めた上で問題をたくさん解くように努めました。学系は直前期に過去問を解きながら暗記していきました。

【論文試験】

市販の参考書や過去問で頻出の論点を押さえて暗記したり、自分で書いたりして練習しました。

【面接】

大学のキャリアセンターや予備校を利用して面接カードの添削や面接練習をしました。

また、自分で想定質問と回答を考えたり、それを声に出して話してみたりということも繰り返していました。官庁訪問では、環境省に対する熱意を伝えることに重点を置きました。2時試験の面接では、時間の短い中でいかにまとめて話すことができるかに気をつけました。

○終わりに

「内定者の声」を最後までお読みいただきありがとうございます。この冊子は、令和7年度入省一般職事務系の内定者（大卒区分）が内定までの過程や勉強方法についてまとめたものです。

長い道のりである就職活動では不安なことも多いと思いますが、正解は一つではありません。この冊子で紹介した内定者それぞれの勉強方法や志望理由が、環境省に興味をお持ちの皆様にとって糧となり、少しでもお役に立てれば幸いです。

また、環境省では説明会やSNSを通じて入省に関する情報をお伝えしております。こちらでも活用することで、環境省の業務や魅力も深く理解でき、就職活動に役立つことと思います。最後になりますが、一生懸命に取り組む皆様が悔いの残らない結果を掴めるよう心より願っております！